

第2章 第3期計画の進捗状況と課題

1 第3期計画の概要

「岩見沢市障がい福祉計画（第3期）」は、平成24年度から平成26年度までを計画期間として、それまでの進捗状況などを踏まえて策定しました。

「岩見沢市障がい者福祉計画（第1期）」の理念を踏まえて、障がいのある人とな
い人がともに支えあい、安心して自分らしい生活を送ることができる地域づくりを
目指して、目標値等を定めています。

2 目標値の達成状況と課題

（1）施設入所者の地域生活への移行

自分らしい生き方を求め、地域での生活を希望する方に対し、地域生活への移行を
進める観点から、障がいのある人が希望する暮らしを支えるために必要な地域の環境
づくりの推進について、その達成状況を計るために施設入所者数を指標としています。

北海道では、平成17年10月1日時点の施設入所者数に対し、平成26年度末の
施設入所者数を18%以上減少させ、3割以上の方の地域生活への移行という目標が
設定されています。

岩見沢市においても、この北海道の目標に則り、地域移行を希望する施設入所者の
地域生活への移行を支援する取り組みを充実させることなどにより、平成17年10
月1日現在の施設入所者数253人の18%に当たる45人の減少及び3割に当
たる75人の地域生活への移行を目標としました。

項目	数値		考え方
	目標	実績	
平成17年10月1日時点の入所者数(A)	253人		平成17年10月1日の施設入所者
目標年度の入所者数(B)	208人	208人	平成26年度末時点の利用人員 (実績は平成26年3月31日現在の利用人員)
【目標値】 削減見込(A)-(B)	45人	45人	平成17年10月1日の施設入所者数から18%以上 減少すること
【目標値】 地域生活移行者数	75人	19人	平成17年10月1日の施設入所者数のうち、平成26 年度末において3割以上が地域移行すること (実績は平成26年3月31日までの地域移行者数)

平成26年3月31日の時点で、岩見沢市の施設入所者数は208人で、253人
から45人減少しています。また、19人の方が地域生活に移行しています。

計画期間の最終年度である現時点において、削減については目標値に達して
いますが、地域生活移行者数は、目標値を大きく下回っています。

(2) 福祉施設から一般就労への移行等

社会に参加し、自立した生活を営むためには、就労は重要な要素の一つであり、障がいのある人の一般就労の促進を目指した取組みの進捗状況を計るための指標です。数値の捉え方としては、援護の実施者が岩見沢市である福祉施設（障害福祉サービス事業所）のサービス利用を通じて、一般就労した人数です。

福祉施設から一般就労への移行については、平成 17 年度において福祉施設を退所し、一般就労した人数が 5 人であることから、今般の経済状況や就労状況を鑑みて、同数の各年度 5 人と設定しました。

項目	数値	考え方
平成 17 年度の一般就労移行者数	5 人	平成 17 年度において福祉施設を退所し、一般就労した者の数
【目標値】 一般就労移行者数	5 人	平成 26 年度において福祉施設を退所し、一般就労する者の数
【実績値】 平成 24 年度一般就労移行者数	15 人	平成 24 年度において福祉施設を退所し、一般就労した者の数
【実績値】 平成 25 年度一般就労移行者数	12 人	平成 25 年度において福祉施設を退所し、一般就労した者の数

実績としては、平成 24 年度と平成 25 年度ともに、目標値である 5 人以上の一般就労を大きく上回っています。

就労移行支援や就労継続支援のサービスが定着し、多くの利用者が充実した活動を行っていますが、一般就労への移行を進めていくためには、訓練により得た能力や知識を一般社会において活かしていく環境の整備が必要であり、関係機関に対し障がいのある方への理解や、就労の機会を求めることが必要です。

3 サービス見込量と実績

(1) 訪問系サービス

サービス種別	単位	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
		見込量	実績	見込量	実績	見込量	実績	見込量	実績
居宅介護 重度訪問介護 同行援護 行動援護	時間 /月	3,320	1,760	2,525	1,951	3,000	1,728	3,475	(2,048)
重度障害者等 包括支援	人	205	122	180	146	215	161	250	(168)

実績は各年度 3 月分の利用時間総数と利用者数（平成 26 年度は 1 2 月分）

訪問系サービスについては、利用者数は年々増加傾向にありますが、実績は見込量を大きく下回る見込みです。

今後、障がいのある人が地域で安心して暮らしていくためには、これら訪問系サービスの積極的な利用を促進するとともに、日中活動系サービス、介護保険サービスやその他の制度等も含め、最も効果的となるサービス利用の組み合わせをコーディネートしていく必要があります。

(2) 日中活動系サービス

サービス種別	単位	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
		見込量	実績	見込量	実績	見込量	実績	見込	実績
生活介護	人日/	5,456	5,415	7,400	6,124	8,400	6,475	9,400	(6,619)
	人	248	273	370	304	420	316	470	(322)
自立訓練 (機能訓練)	人日/	770	46	110	46	110	0	110	(0)
	人	35	2	5	2	5	0	5	(0)
自立訓練 (生活訓練)	人日/	528	51	110	19	110	19	110	(0)
	人	24	3	5	1	5	1	5	(0)
就労移行支援	人日/	1,188	1,193	1,540	1,254	1,650	1,039	1,760	(744)
	人	54	65	70	71	75	55	80	(39)
就労継続支援 A型	人日/	1,298	470	770	589	770	775	770	(1,180)
	人	59	24	35	34	35	40	35	(61)
就労継続支援 B型	人日/	4,356	4,462	5,500	4,289	6,050	4,917	6,600	(4,975)
	人	198	233	250	228	275	260	300	(269)
療養介護	人	1	0	15	17	15	17	15	(17)
短期入所	人日/	68	252	350	163	350	158	350	(134)
	人	-	26	50	20	50	17	50	(19)

実績は各年度3月分の利用時間総数と利用者数（平成26年度は12月分）

生活介護については、利用者数は年々増加傾向にありますが、実績は見込量を大きく下回る見込みです。

自立訓練（機能訓練・生活訓練）については、利用者数は年々減少傾向にあり、実績は見込量を下回る見込みです。実績が少ない状態で推移していますが、この事業を実施する事業者が岩見沢市内になく、南空知圏域でもほとんどないためであると考えられます。地域で暮らすために必要な訓練を行うサービスであることから、サービスの確保と利用の促進を図る必要があります。

就労移行支援については、利用者数は年度によりばらつきがありますが、実績は見込量を大きく下回る見込みです。このサービスは一般就労への移行を支援する事業であり、障がいのある人一人ひとりの能力や障がいの特性・状況に応じた就労ができるよう、支援体制の充実に努める必要があります。

就労継続支援A型については、利用者数は年々増加傾向にあり、実績は見込量を大きく上回る見込みです。新たな事業所の開設も見られていることから、今後も適切な利用者の把握やサービス提供の確保を推進する必要があります。

就労継続支援B型については、利用者数は年々増加傾向にありますが、実績は見込量を若干下回る見込みです。新たな事業所の開設も多く、利用者増につながり実績も向上しており、今後も利用者数を適切に把握し、必要なサービス提供の確保を推進する必要があります。

療養介護については、現時点で利用者は17人となっており、実績は見込量を若干上回る見込みです。医療と常時介護が必要な方の生活に支障が起きないように、利用者サービス提供量の適切な把握が必要になります。

短期入所については、利用者数は年々減少傾向にあり、実績は見込量を大きく下回る見込みです。ただし短期入所は、障がいのある人と、それを支える家族等にとって大きな安心感に繋がるサービスであることから、必要な時に安心して利用することができるよう周知を図る必要があります。

(3) 居住系サービス

サービス種別	単位	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
		見込量	実績	見込量	実績	見込量	実績	見込	実績
共同生活援助 共同生活介護	人/月	103	124	145	136	165	147	185	(159)
施設入所支援	人/月	218	184	231	221	226	208	208	(214)

実績は各年度3月分の利用者数（平成26年度は12月分）

共同生活援助・共同生活介護については、利用者数は年々増加傾向にありますが、実績は見込量を若干下回る見込みです。今後も、社会的入院患者を含む施設入所者等の地域生活への移行を促進するに当たって、その目標を達成するに見合ったサービス提供量を見込む必要があります。

施設入所支援については、利用者数は年度によりばらつきがありますが、実績は見込量と同程度となる見込みです。施設入所支援を必要とする方々を適切に把握するとともに、地域移行を希望する人に対する実効ある取組みが求められます。

(4) 相談支援事業

サービス種別	単位	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
		見込量	実績	見込量	実績	見込量	実績	見込	実績
計画相談支援	人/月	-	-	17	60	96	136	121	(226)
地域移行支援	人/月	-	-	20	1	20	0	20	(2)
地域定着支援	人/月	-	-	40	2	40	4	40	(5)

実績は各年度3月分の実利用者数（平成26年度は12月分）
（ただし、計画相談支援は年間の実利用者数）

計画相談支援については、利用者数は年々増加傾向にあり、実績は見込量を大きく上回る見込みです。原則としてすべての障害福祉サービス等を利用する方について、サービス等利用計画・障害児支援利用計画の作成が必要となったことで、指定特定相談支援事業所も増加し、利用者も増加しています。

地域移行支援・地域定着支援については、利用者数は各年度ともにごくわずかであり、実績は見込量を大きく下回る見込みです。社会的入院患者等の地域生活への移行を促進するに当たって、入所・入院者当人に対する地域移行への意識啓発や、希望する方が利用しやすくなるよう周知を徹底するなどして、活用しやすい環境づくりが必要です。

(5) 障害児通所支援

サービス種別	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
		実績	実績	実績	実績
児童発達支援	人/月	-	78	91	(118)
医療型児童発達支援	人/月	-	0	0	(0)
放課後等デイサービス	人/月	-	10	20	(92)
保育所等訪問支援	人/月	-	0	0	(0)
(参考) 児童デイサービス	人/月	82	-	-	-

実績は各年度3月分の利用者数（平成26年度は12月分）

児童発達支援・放課後等デイサービスについては、利用者数は年々増加傾向にあります。医療型児童発達支援・保育所等訪問支援については、利用実績がありませんでした。

障害児通所支援は平成24年4月から制度が開始され、見込量が設定されていないことから、実績のみ記載しています。また、参考として平成23年度には旧制度で実施された児童デイサービス利用者について記載しています。

(6) 地域生活支援事業

サービス種別	単位	平成24年度		平成25年度		平成26年度	
		見込量	実績	見込量	実績	見込量	実績
相談支援事業	箇所	5	2	5	2	5	(2)
地域自立支援協議会	有無	有	有	有	有	有	(有)
市町村相談支援機能強化事業	有無	有	有	有	有	有	(有)
成年後見制度利用支援事業	有無	有	有	有	有	有	(有)
コミュニケーション支援事業	設置	人	1	1	1	1	(2)
	利用	人	12	15	13	14	(16)
日常生活用具給付事業	件	2,729	2,634	2,764	2,828	2,800	(3,048)
移動支援事業	時間	4,000	3,546	4,500	3,459	5,000	(3,091)
	人	45	85	50	79	55	(81)
地域活動支援センター	箇所	1	1	1	1	1	(1)
	人	10	7	10	7	10	(7)
日中一時支援事業	箇所	10	12	12	12	12	(12)
	人	35	52	40	60	45	(50)

人数～年間の累計実人数 時間～年間の累計実利用時間 件数～年間の累計実件数

相談支援事業については、5か所の設置見込に対し、市役所福祉課の相談窓口と、有明交流プラザ内の相談窓口の2か所を設置しています。

地域自立支援協議会については、「岩見沢市障がい者サポート協議会」を設置しています。

市町村相談支援機能強化事業については、市役所福祉課の窓口に保健師1人を配置し、相談支援事業の強化を図っています。

成年後見制度利用支援事業については、必要な方に対し、審判申立に当たっての費用を助成するなど、成年後見制度の利用を支援しています。

コミュニケーション支援事業については、市役所福祉課の窓口到手話通訳者を配置し、平成26年度から1名増員して2名配置しています。また、利用者数は毎年同数程度となっており、実績は見込量と同程度となる見込みです。

なお、手話通訳者の派遣件数は、平成24年度は108件、平成25年度は117件、平成26年度は12月末までで133件となっています。

日常生活用具給付事業については、排泄管理支援用具の利用者が多くを占めており、利用件数は年々増加傾向にあり、実績は見込量を上回る見込みです。

移動支援事業については、利用者数は毎年同数程度となっており、実績は見込量を上回る見込みです。

地域活動支援センターについては、1か所を設置しています。利用者数は毎年同数程度となっており、実績は見込量を若干下回る見込みです。

日中一時支援事業については、事業所数は毎年同数となっています。利用者数は毎年同数程度となっており、実績は見込量と同程度となる見込みです。